

放送を巡る諸課題に関する検討会 放送用周波数の活用方策に関する検討分科会（第 21 回）議事概要

1. 日時

令和 4 年 6 月 17 日（金）15 時 00 分 ～ 15 時 45 分

2. 場所

Web 会議

3. 出席者

（1）構成員

伊東分科会長、三友分科会長代理、内山構成員、関根構成員、林構成員、不破構成員

（2）総務省

吉田情報流通行政局長、藤野審議官、三田同局総務課長、近藤同局放送技術課長、堀内同局地上放送課長、安東同局衛星・地域放送課長、岸同局放送政策課外資規制審査官、中谷同局衛星・地域放送課地域放送推進室企画官

4. 議事要旨

（1）前回の議事概要の確認

事務局（放送技術課）より、第 20 回議事要旨（案）について、【資料 21-1】に基づき説明があり、特段の意見はなく了承された。

（2）V-High 帯域での実証実験等の結果

事務局より、V-High 帯域における実証実験等の結果取りまとめ（案）について、【資料 21-2】に基づき説明があり、以下の質疑応答が行われた。

【伊東分科会長】

経緯のところでもう一つ確認させていただくが、計 3 回の提案募集において移動受信用地上基幹放送への参入希望はなかったということで、今後、V-High 帯域は、移動受信用地上基幹放送には割り当てないという理解で良いか。

【事務局】

ご認識のとおり、3 回の提案募集において、V-High 帯域における移動受信用地上基幹放送に係る参入希望はなかったため、今後は、今回の取りまとめを踏まえ、移動受信用地上基幹放送ではなく、具体的なシステムの導入に向けた検討を進めていくことになる。

【三友分科会長代理】

これまで放送で使っていた V-High 帯域であるが、長い期間検討され、様々なご提案をいた

だいたいが、放送の用途については難しい点があることが分かった。今回のご提案の中で一つの可能性が見えてきたところではあるが、実現可能性、実行可能性の観点で、さらに検討を進めることが望ましいと感じている。今回実施いただいた実証実験の先のさらに現実に近いサービスを目指して、まずはやってみるといことも念頭に、ご検討いただければと考えている。

【不破構成員】

V-High 帯域の有効性について、具体的な実証実験の結果をまとめていただいた。この周波数の利用については困難が多々ある一方で、その中でもいくつかの可能性や展望が見えてきたと感じている。

伊東分科会長より、6月22日までに追加の意見等があれば、事務局まで御連絡いただきたい旨の連絡があり、修正が必要な場合、その最終確認は伊東分科会長に一任することが承認された。

(3) その他

事務局より、V-High 帯域における実証実験等の結果取りまとめについては、構成員からの意見を踏まえて修正し、6月末を目途に報道発表を予定している旨の連絡があった。

また、吉田情報流通行政局長から挨拶があった。

【吉田情報流通行政局長】

本日は、V-High 帯域における実証実験等の結果について、取りまとめていただいた。放送大学の地上放送跡地やV-Low 帯域も含め、その活用方策について精力的にご検討いただき、伊東分科会長はじめ構成員の皆様にご挨拶申し上げます。

総務省では、これまでに取りまとめていただいた活用方策に基づき、具体的な取組みを進めている。放送大学のFM放送で使用していた周波数については、関東地域における臨時災害放送局で利用できるようにするため、電波法関係審査基準の一部改正手続きを進めており、今月末の施行を予定している。また、V-Low 帯域における防災関連情報の提供を目的としたシステムについては、導入に向けて、今夏より技術試験に着手する予定である。

V-High 帯域についても、本日取りまとめていただいた内容を踏まえ、総務省において、具体的なシステム導入に向けた技術検討及び制度整備を速やかに進めていきたいと考えている。

最後になるが、分科会での検討にご尽力いただいた伊東分科会長、構成員の皆様へ、改めて厚く御礼を申し上げます。

最後に、伊東分科会長から総括があった。

【伊東分科会長】

本分科会の検討項目である、放送大学の地上放送跡地、V-High 帯域、V-Low 帯域それぞれの活用方策について、およそ3年半にわたって検討してきたところであり、一定の結論が得られたと考えている。これまで本分科会での議論に時間を割いていただいた構成員の皆様には改めて御礼申し上げます。

(以上)